## 5 大宮二丁目自治会　（杉並区）

構成世帯数：369 世帯（令和 2 年）

イベント活動を充実させ、新規加入の獲得につなげる

# “明るく、楽しく、元気よく”を合言葉にまちづくり

●ポイント
・防災イベントなどを通じて新規住民、自治会未加入世帯に積極的な働きかけを展開。
・高千穂大学の協力を得て、大学グランドを第一避難場所に確保するなど地域を動かす取組にリーダーシップを発揮。
・地域住民の医療に関する課題の解消へ、地域医療連携構想の具体化もめざす。

### 大宮八幡宮や善福寺川などの緑が豊かな環境

大宮二丁目自治会内には、歴史のある大宮八幡宮があり、高千穂大学、佼成学園総合グランド、大宮児童館、同保育園、高千穂大学高千穂幼稚園、大宮幼稚園、大宮児童公園、宮元公園などがあり、緑豊かな環境の住宅地となっている。隣接する和田堀公園では、カワセミやオオタカが観察されることもあり、野鳥を撮影に訪れるアマチュアカメラマンも多い。

昭和 20 年代には、農地や雑木林が多く見られたが、戦後の高度成長期に宅地化が急ピッチで進み、今は大半が戸建て住宅となり、自治会内のマンションは都心に近い立地条件にもかかわらず 4 棟と少ない。

### 転入者や未加入者に積極的に働きかけ、構成世帯数が 5 年間で約 35%増加

大宮二丁目自治会では、“明るく、楽しく、元気よく”を合言葉に掲げ、日常の活動のほか、年何回かのイベントを実施しており、年々参加者も増えているが、現役世代の家族の参加が少なく、自治会組織を維持発展させていくためにも、今後を担う世代の参加率を上げていくことが課題となっている。

「みんなが支えあう地域を目指し、より多くの皆さんが参加できる活動を立案して実施していきたい。転入者や未加入者への自治会入会勧誘が課題です」と自治会会長。「転入者には、毎月発行の自治会だよりを配り、自治会活動を知っていただくようにしています。自治会掲示板の活用にも力を入れています」と説明する。

新規加入世帯獲得に向けては、現在配布している入会案内に加え、更に分かりやすい「案内しおり」の作成も検討している。未加入マンションには、管理会社を通じて自治会だよりを配布、イベントへの参加案内なども配布し、声掛けもしている。

自治会活動で欠かせない担い手の育成については、イベントを企画する段階から参加してもらい、イベント開催時にも役割を担ってもらうなど、活躍の場を作りながら協力を得ている。

また、自治会活動に協力してくれた青少年を杉並区善行表彰に推薦。令和 2 年度（2020 年度）は小中学生から高校、大学、大学院までの 16 人が採択され、表彰を受けた。

公園やグランドなど住宅以外の敷地が広く、小中学校がやや離れていることなどから、通学路をより安全にする取組などにも自治会として力を入れている。

こうした活動を通じて、自治会の構成世帯数はここ数年で著しく増加した。もともと規模の小さな自治会だが、平成 28 年（2016 年）に 273 世帯だった会員数は令和元年まで毎年 10%近く増加が続き、令和 2 年（2020 年）は 0.5%減とやや減少に転じたものの、平成 28 年から同 2 年までの 5 年間で約 35%と大幅な伸びを示している。

## 高千穂大学の協力を得て大学グランドを第一避難場所として使用可能に

東京都の「地域の底力発展事業助成」を活用したイベントとしては、令和元年度（2019 年度）は「防災訓練を通じた自治体間連携と地域防災力を図る」をテーマに活動を展開した。

特に効果が上がった取組として、まず避難場所の確保がある。大宮二丁目自治会地区の避難場所は松ノ木中学校となるが、善福寺川を渡り徒歩 10 分前後の距離にあるため、足の悪い高齢者などにとって避難場所まで歩くのは容易ではない。そこで、自治会では高千穂大学と交渉。全面的な協力を得て、大学のグランドを第一避難場所として使えるようになった。

また、自治会内の 4 棟のマンションにも防災訓練への参加協力を要請。3 棟は会員が全くいないが、管理人を通じて安否確認タオルを渡し、参加を呼び掛け絆が広がった。

自治会間連携では、都営住宅 33 戸で構成される大宮会と協力し、地域の防災力の向上を図った。大宮会は、杉並区に自治会として正式登録されていなかったが、会長の助言などにより、平成 30 年度（2018 年度）に区に登録した経緯がある。

前年度との防災訓練との比較では、参加人数が 130 人から 142 人（9.2%増）、安否確認タオル掲示世帯数が 168 世帯から 223 世帯（32.7%増）と増えた。加入世帯数は前年の訓練時からの 1 年間で 331 世帯から 373 世帯へ、42 世帯（約 13%）増やすことに成功している。

特に安否確認と避難誘導では次代を担う大宮二丁目少年団の参加を得ており、会長は「これからの防災活動にとって頼もしいかぎり」と報告している。

会長は、杉並区建築協会主催の防災とまちづくりをテーマとしたシンポジウムのパネリストとして招かれたほか、高千穂大学から防災を中心とした自治会の取組について講義依頼を受けるなど、情報発信でも積極的に活動している。役員など執行部のリーダーシップが自治会活動の活性化に重要となっていることをうかがわせる状況にもなっている。

イベント告知ポスターの自治会内掲示板への掲示、広報すぎなみへの記事掲載、地域内コンビニ、スーパーマーケット、飲食店でのポスター掲示に取り組み、未加入マンションへは管理会社を通じ各世帯にポスターを配布し参加を募るなど、情報発信に力を入れている。

## 行政や近隣の病院と協力し地域医療連携の構想の具体化もめざす

今後の取組として、ホームページの制作を計画。さらに、新規加入世帯数を更に増やし、活動をより活

発化していくために、「昔から向こう三軒両隣ということばがあります。コロナ禍におけるニューノーマル社会を迎え、また高齢化が進む中、今こそ日頃より隣近所での声掛け、助け合いが必要となります。今後、皆の健康生活の維持・向上を図るため行政、医療機関との地域医療連携なども考えていきたい」（会長）と説明する。

地域医療連携は、自治会の区域内に病院がないこと、コロナ禍で病院に行きたがらない、どこの病院に行けばよいか分からないといった地域住民の課題の解消を図ろうというもの。まだ構想段階だが、近隣の病院や行政との調整を検討している。

「地域の底力発展支援事業助成」で実施した避難訓練で連携している高千穂大学。
大学のグランドを第一避難所として利用することで協力